

科目コード	記号	科 目 名	学年	単位・時間	必修・選択	授業形態	単位種別
2016	BS28	経済学:Economics	4B	2・100分	必修	講義・通年	学修単位
教 員 名		太田 勝:OTA Masaru					
授 業 概 要	前期ではマクロ経済学(経済の基本的な脇組み、とりわけケインズの国民所得理論)の解説をする。後期ではミクロ経済学(個々の経済主体の経済活動や独占・寡占などの価格理論)の解説をする。						
	到達目標			評価方法		評価配分	
	(1)マクロ経済学の骨格をなす国民所得決定論を理解できる。			(1)中間試験		(1) 30%	
	(2)経済主体の行動原理(企業の利潤最大化や家計の効用最大化)を理解できる。			(2)期末試験		(2) 30%	
	(3)現実の経済の実態(経済問題)を経済ツールを使って分析し、その解決策(経済政策)を提示できる。			(3)レポート		(3) 40%	
学習・教育目標			(C)①		JABEE基準1(1)		(d)－(4)
授 業 計 画 画	前 期			後 期			
	回	項 目	内 容	回	項 目	内 容	
	第1	マクロ経済学の目的と手段	経済体制とマクロ経済学の目的、経済政策	第16	経済システムと経済主体	市場経済と価格メカニズム	
	第2	国民所得会計	付加価値、GNP,GDP等の計算方法を学ぶ。	第17	消費者行動の理論①	限界効用逓減の法則について学ぶ。	
	第3	消費関数	消費関数を通して、その決定要因や限界消費性向の意味を理解する。	第18	消費者行動の理論②	単位貨幣当り限界効用均等化が効用最大化をもたらすことを学習する。	
	第4	乗数理論	企業の生産活動の波及効果を学習する。	第19	生産者の行動①	さまざまな費用曲線について学ぶ。	
	第5	国民所得決定理論	均衡国民所得、貯蓄・投資均等式、有効需要の原理についての学習。	第20	生産者の行動②	価格＝原価費用で生産することが最大利潤をもたらすことを学習する。	
	第6	現在価値の計算	投資が将来にわたって生み出す収益の流れを現在価値になおして計算する。	第21	消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰	余剰概念について学ぶ。	
	第7	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。	第22	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。	
	第8	財政政策	政府の財政活動と財政政策(フィスカル・ポリシー)、均衡財政主義の意味を理解する。	第23	完全競争と独占について	独占企業の行動や独占の弊害について。	
	第9	金融政策	中央銀行の役割と機能、金融政策手段について学ぶ。	第24	寡占について	寡占経済における屈折需要曲線やフルコスト原則について学ぶ。	
	第10	銀行の信用創造	銀行はその本源的預金から、その数倍の信用創造を行うことを、貨幣乗数の計算を通して学ぶ。	第25	市場の失敗	ある市場においてはパレート最適が実現しないことを学習する。	
	第11	貨幣数量説	古典派経済学の貨幣需要理論を学ぶ。	第26	公共財	私的財との比較で公共財の特質を学ぶ。	
	第12	インフレーション	デマンドプル理論やコストプッシュ理論、インフレが経済に及ぼす影響について学ぶ。	第27	外部効果について	外部効果がある場合、私的費用と社会的費用が乖離することを理解する	
	第13	経済成長論	ハロッド・ドーマモデルについて学ぶ。	第28	比較生産費説	国際貿易の利益について学ぶ。	
	第14	演習問題	復習と演習問題	第29	演習問題	復習と演習問題	
	第15	まとめ	前期の学習事項のまとめを行う。	第30	まとめ	後期の学習事項のまとめと授業評価アンケートを行う。	
関連科目		政治・経済					
教科書		Macroeconomics(BARRON'S) とMicroeconomics(BARRON'S)の二冊					
参考書		現代経済学の基礎(牛島・林、有斐閣)					
授業評価・理解度		最終回に授業評価アンケートを行う。					
副担当教員							
備 考		補助教材として「Excelでやさく学ぶ統計入門」を利用します。					